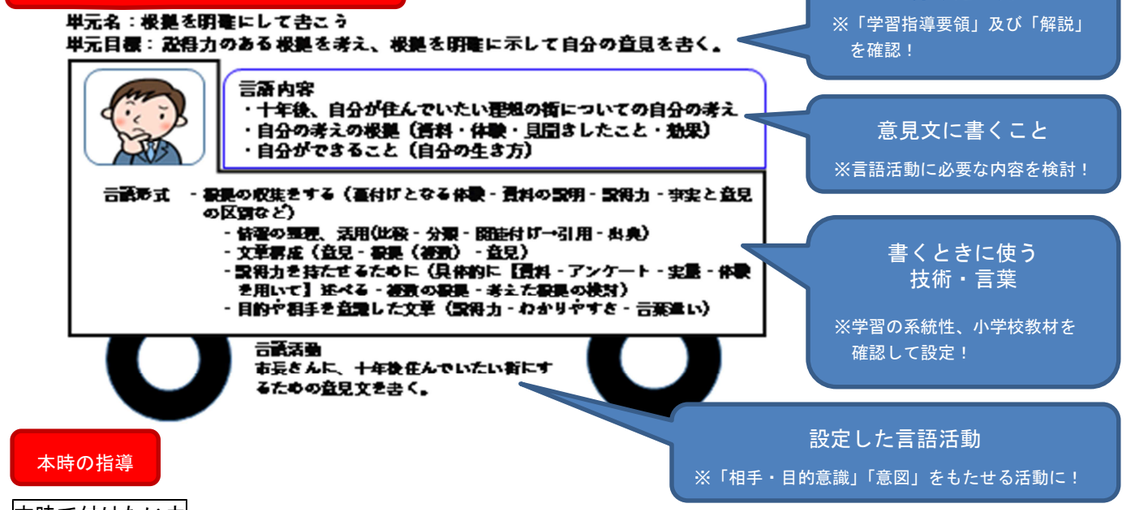
国語科　授業づくり講座～授業研究会②～　（香美市立鏡野中学校）　令和元年 11 月5日

（単元名）　根拠を明確にして書こう
（教材）　教科書：「新編　新しい国語１（言葉の力　根拠を示す）」
図書資料：「香美市　未来を描く」「第２次香美市振興計画」等
授業者　岩城　めぐみ　教諭

単元づくり・提案授業

教材研究会後に作成したトラック図



本時の指導

本時で付けたい力

自分の集めた資料や体験が説得力のあるものかどうかを吟味することができる。【Ｂ（１）ウ】

本時で働かせる見方・考え方

「自分の考え」と「集めた材料（根拠）」の関係について、自分の考えの根拠として適切であるか、市長の心に届く説得力があるかについて考え、吟味している。

本時の学習活動

①めあて・課題をつかむ：前時の学習とポイントを振り返る。
②見通しをもつ：言語活動の目的（単元ゴール）を確認し、学習の流れを知る。
説得力のある根拠とはどういうものか、教師のモデル例を通して考え、思考の視点や方法をつかむ。
③学び合う：考えに対する根拠と言えるか、説得力をもつ根拠であるか、他に根拠はないか、グループで吟味する。
④まとめる：グループでの話合いをもとに、自分の根拠を再考し、意見文に使う根拠（複数）とその理由を書く。
⑤振り返る：友達からのアドバイスや話合いを通して気付いたことを書く。

協議内容

協議テーマ　生徒は、言語活動を通して、見方・考え方を働かせながら、資質・能力を身に付けていたか。

授業参観の視点　生徒が見方・考え方を働かせている姿が見られたか。
（生徒の姿）と（考えられる教師の手立て）を基に協議を行う。

◆言語活動、テーマについて

関心は高かったが、「10 年後も住みたい街」というテーマが大きく、自分の考えを十分もてていなかったのではないか。
→国語科と総合的な学習の時間を関連させ、それぞれで育成する資質・能力を押さえた単元計画にする。資料の量と質の取捨選択が必要である。根拠の吟味をするために、テーマを踏まえた提案（自分の考え）であるかを考える必要がある。

◆見方・考え方を働かせることについて

ねらいを達成するためのモデルになり得ていなかったのではないか。根拠の吟味が十分できていなかった。
→複数の事例を比較し、どちらが説得力があるか、それはなぜかを問うモデルにするとよかったのではないか。よりよい根拠の視点を明確にし、視覚化する。「事実＋理由付け」を意識させる。グループ交流の途中で全体指導を入れ、修正を図る。

『新教育課程を活かす能力ベイスの授業づくり』より

資質・能力ベイスの単元開発へのアプローチ　○授業づくりの視点 14-1　P80

単元で育てたい資質・能力の明確化
・学習指導要領の指導事項の確認
・教材分析
・系統確認

言語活動の設定
・単元で育てたい資質・能力に対して言語活動が適切か吟味・検討

単元計画の作成
・単元全体のつながりを確認
・1時間1時間の課題設定

見方・考え方の明確化　見方・考え方の位置付け　見方・考え方を鍛える

言語活動を通して資質・能力を育成する

○授業づくりの視点 10　P62
・学びの主体を子供にするという視点をもつ
・学びの意欲や価値を子供に実感させる
・ゴールイメージと学習の見通しを明確にする

見方・考え方の明示的指導

○授業づくりの視点 12　P70～73
可視化：板書、ノート例
○授業づくりの視点 13　P74～77
対話：教師、先哲の知恵
○授業づくりの視点 14-5　P88
見方・考え方の成長を自覚する場面での明示的指導

講師の先生より　松永　立志　氏　（前鎌倉女子大学教育学部准教授）

◆本単元・本時について

教科書を離れて単元化を図り、提案性のある授業であった。ただ、中１にとって、社会問題を扱う難しさがある。根拠の明確さを厳密にしすぎないことや、情報量を増やし、関連付けて考えさせることが必要であった。また、「10 年後住みたい街にするために、今、自分は何ができるか」から想像を広げて、自分の考えを組み立てさせる方がよかったかもしれない。

◆本単元において説得力をもたせる要素

①Ｔｈｉｎｋ　Ｇｌｏｂａｌｙ，Ａｃｔ　Ｒｏｃａｌｌｙ
②意見や主張の実現時の効果
③資料、データに基づく明確な根拠・理由
④反対意見への反論
⑤相手を意識した意見や表現

説得力をもたせるにはどういう要素があるか、もっと吟味した上で、生徒に知らせることが必要！小学校の学習を生かすこと！

◆表現活動における可視化を目指す「言葉による見方・考え方」と教材研究

Ａ　相手意識や目的意識に基づく表現の意図（思いや考え・願い）

Ａ・Ｂ・Ｃの関係性が浮かび上がってくるようなトラック図による教材研究が不可欠！

Ｂ　意図を達成するための言語内容
低学年：身近、経験、想像した内容のまとまり
中学年：経験、想像した内容を比較・分類
高学年：感じた・考えた内容の分類、関係付け

Ｃ　意図を達成するための言語形式
低学年：事柄の順序、内容のまとまり
中学年：内容の中心、段落相互の関係
高学年：事実と感想、意見の区別、文章の構成や展開、引用、図表やグラフの関係

子供が言葉による見方・考え方を働かせると、
「対話や交流の必要性・必然性」が生じてくる！
「自分の見方・考え方はこれでいいのか」「これで、自分の意図は達成できるのか」と不安になる。
→友達や先生に、「これでいいのか」「もっと効果的な考え方はないのか」と質問したり確認したりしたくなる。

リフレクションシートからは、多くの学びと実践意欲がうかがえました。来年度の授業づくり講座も、たくさんのご参加をお待ちしています。
【東部教育事務所】